

海上自衛隊・館山航空基地にて、 哨戒・救難ヘリコプター運用現場を見学

～総務連絡会研修～

SJAC会員の有志会社で構成する総務連絡会（現在12社、事務局はSJAC総務部）は総務全般に関する連絡調整、相互協力及び親睦を目的とする集まりであるが、航空機製品のユーザー運用状況等について見聞を得るため、各地の自衛隊基地等での研修を年2回行っている。

去る6月17日、9社10名及び事務局2名が参加して、海上自衛隊最大のヘリコプター基地である館山航空基地を見学したので、その概要を報告する。

梅雨時期としては幸運な薄曇りの空の下、11時前に基地に入り、第21航空群司令部を表敬した。その後、広報室長から海上自衛隊及び第21航空群の活動状況に関するプレゼンを受け、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動などの海外派遣を含む、護衛艦搭載ヘリコプターによる海上防衛、救難、急患輸送

等の活動について教示いただいた。昼食（海自の金曜恒例メニュー「海軍カレー」を体験喫食）の後、基地史料館を見学し、関東大震災で地盤隆起した浅瀬を埋め立て、昭和5年に館山海軍航空隊が開隊されて以来の歴史を物語る、多数の興味深い史料に触れることができた。

次いで、第21航空隊のSH-60K哨戒ヘリ、第73航空隊のUH-60J救難ヘリをそれぞれ格納庫内で見学した。SH-60Kは米海軍哨戒ヘリSH-60Bシーホークに日本で開発した独自装備品を搭載したSH-60Jをベースに防衛省が改造開発し、2005年から部隊配備されている。対潜戦・対水上戦能力のみならず多用途性や安全性を向上させるため、高性能ソナー、戦術情報処理表示装置の装備、ローター高性能化、キャビン拡大、着艦誘導支援装置の装備などがなされた。UH-60Jは米軍多目



UH-60J救難ヘリコプターを見学する様子

的ヘリUH-60ブラックホークを自衛隊の救難用に改良し国内でライセンス生産しているもので、海自には1992年から部隊配備されている。SH-60K見学では機体に装備されたソナーや磁気探知装置を見ながら、これら複数の情報の統合により海洋生物と潜水艦を識別するなどの説明を受け、また、フラットパネルで統合化されたコクピットに乗込むことができた。UH-60J見学では、伊豆諸島南部の離島からの急患輸送においては硫黄島航空分遣隊のヘリで硫黄島へ輸送し固定翼機に引き継いで東京へ運ぶことなどを知ることができた。

更に基地隊の救難消防車1Bを見学した。これは福島原発事故での原子炉火災消火活動の教訓から、高く遠くへ放水できる強力な消防車を米国から調達したとのことである。最

後に、管制塔頂上、ビル7階相当の管制室へ登り、ヘリ空港と背後の館山湾や南房総の丘陵を展望しながら、訓練飛行を管制する業務を見学させていただいた。

今回の研修では、各種機材の現物に触れながら、現場の部隊員から直接の説明を聞き、艦載ヘリコプターの運用について具体的なイメージを持つことができた。機体、エンジン、装備品メーカーの総務関連部門員が、航空機の運用現場について実感を持って蓄えた知識は、航空機産業界が今後、製造のみならずMROも含めた業容発展を目指していく上で生きてくるものと期待される。懇切丁寧にご対応くださった基地の方々のご親切に対し深く感謝の意を表したい。今後も、有意義な研修を企画、実行していきたい。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 総務部部長 品川 貴〕